

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401129		
法人名	株式会社ハウジングいとう		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	札幌市西区発寒4条2丁目3-12		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町村受理日	平成23年8月3日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。  
<http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401129&SCD=320>

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域に密着したグループホームとして、地域の行事へはいつも顔を出させていただけます。秋の文化祭には毎年、何ヶ月もかけて手作りの力作を出展し、昨年は歌の得意な方2名が芸能発表され大変好評でした。お楽しみ行事以外では、お元気な方に限られますが、町内の清掃活動にも参加させていただき、できる限り地域や社会の一員としての役割を果たしていきたいと思っています。

・「個性を理解し、大切に…」の理念の下、皆さんがそれぞれ、その人らしくあるために、ご自分の考えや意見を自由に述べられる環境作りを目指しています。職員の都合や押しつけ、また個々の主張が強くなり衝突などの問題に配慮しながら個性の尊重に努めています。

・ご家族の希望で「一日でも長くところで生活を…」との要望を受け、ぎりぎりまで入院を延ばしてきた方、結果的に最後まで住み慣れた環境で、不安感なく過ごしていただき、介護側もそれにお答えできたことが大変嬉しく感じたことでした。今後も利用者、家族のニーズにお答えできるよう介護力を養ってまいります。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年7月9日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年というホームで利用者の価値観を大切にしている事業所である。立地は住宅街に位置し5階建ての1~2階をグループホームとして改築している。外観は普通のマンションの様相であり地域に溶け込んで建物が存在している。事業所内はバリアフリー化されており洗面台も身体状況に合わせて調整できる昇降式で生活機能を重視するなど工夫されている。運営推進会議には家族も参加しホームから積極的に「ひやりハット」や「事故報告」がされており情報開示されている。職員間の人間関係も良く相互の意思疎通も良好なため、管理者を中心としてまとまりのあるチームワークが形成されている。昼食時には笑い声、楽しく食卓を囲んでの風景が窺えたように、笑顔、優しさをモットーにチームプレーで手厚いケアに取り組んでいる。代表者も積極的に職員や利用者とのコミュニケーションや外出時の運転手やケアをサポートするなど関わっている。運動機材の取り入れ、音楽療法など機能低下防止に力を入れている。会議録など書類は詳細に整理され管理が行き届いている。地域の行事などに利用者が歌の披露や手づくり作品の展覧、地域活動のゴミ拾いなど地域の方々との交流にも力を入れている。防災対策でも地域との連携やホーム独自の毎月の避難訓練、防火扉や火災通報装置の設置など緊急時に向けた対策を着実に進めている。「地域の一員としての役割」を目指すホームとして期待できる事業所である。

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関・居間・休憩室に理念を掲示し、意識して働いている。 ・毎月、ユニット会議で理念への取り組みについて話し合い、次へと繋げている。	理念は地域の中のホームとしての位置付けや利用者との絆を大切にしていることが見受けられる。会議等で、理念の意識づけや日々のサービスの提供場面を振り返り、再確認して、理念の共有と実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事や清掃活動に参加し、皆さんと交流の機会を持ってきた。散歩で出会った時も気楽に声をかけてくれたり、挨拶を交わしている。	地域の新年会や夏祭り、ゴミの清掃などに職員とともに参加したり、地域の人や事業所の上の階のマンションの住民との挨拶や交流など事業所として地域の一員として日頃から取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・現在特にありませんが、機会があれば貢献していきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・「ひやりはっと」「事故報告書」の経緯、詳細を報告、また、ホームの行事や、利用者の近況をご家族に伝えるよう努めている。評価への取り組みも報告し、ご意見をいただいている。	会議は定期的開催して町内会長、家族など出席して利用者状況や転倒事故報告、外部評価など率直な意見交換を運営に活かしていることが詳細な議事録から窺える。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・生活保護担当者や包括支援センターの方と入退居情報や個別のケースの情報交換を行っている。	行政担当者や地域包括支援センターなどとは、案件によるが入居希望者の受け入れ、相談、情報交換等を積極的に行ない、常に協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・年に一度内部研修を実施し、拘束の対象となる具体的な行為について学んできた。言葉かけ、コミュニケーションの不適切などにも注意を払ってきた。 ・玄関の施錠については、家族からも防犯上必要であるご意見があった。	内外研修では身体拘束のテーマで事例を基に職員の認識や考えを引き出しながら全体で気づきや学びを深め理解の共有を図っている。外出傾向の利用者には細やかな行動観察により拘束にならない工夫や安全を確保しつつ、家族とも連携を取りながら自由な暮らしを見守り支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止法についての外部研修の参加や内部研修を実施し、各々の意識を高めるようにしている。 また、日常での言葉遣い、変色などを注意深く観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在該当者はおらず、必要性があれば支援活用を考えている。 ・外部研修に参加し、制度の理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は利用者、家族の不安や疑問を解消できるよう説明に努める。特に支払い等の金銭面、入院が長引いた場合の不安も大きいので、不安を払拭できるようご説明する。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・何かあれば直接職員や管理者がお話を伺っている。運営推進会議でも要望や家族の貴重なご意見は運営に反映させている。 ・ご家族来訪時に遠慮なく何事でも話していただけるよう努めている。	運営や利用者に関する意見や要望などは、家族来訪時や運営推進会議の席上などで寄せられることがある。家族来訪時には話し合いができるような雰囲気に努めている。意見箱を玄関入り口に設置している。組織全体でサービスの向上に反映するよう取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一度のユニット会議では、議題として意見が出せたり、各自の考えなど意見交換できる。それらが必要事項であれば運営に反映させていく。	管理者は日常的業務を通じたり、朝礼時やユニット会議など意見や提案を出せる機会を設けている。職員からでた意見は大事に受け止め、ケアのレベルアップに繋げて運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・会議で全職員が参加してもゆとりのある部屋を作り、ゆっくり休憩もとれるよう職場環境を整備した。 ・資格取得を勧め、休日や受験料等応援できる体制を作った。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は職場に来て職員や利用者とのコミュニケーションをとるなどして、全体の把握を行う。外出行事には運転手や介助員として参加し、介助の一端をになう役割を持って観察している。研修や資格取得を持つことも進めている。(今年度資格取得者2名)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・区内の管理者連絡会議のなかで、講師を招いた勉強会を催し、参加交流の機会が持てる。 同業者の活動、取り組みなども参考にさせていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どなたも不安が一杯です。初期段階は積極的に関わりを持ち、相手の話を傾聴し、安心感を持っていただけるよう、関係を築いていきます。</li> <li>・フェイスシートや家族からの情報も職員間で共有、活用します。</li> </ul>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期段階では利用者に対する悩みなどお聞きし、今後の参考にしたり、できる限り不安を解消できるよう説明に努めます。要望にはできる範囲でお応えしますが、他の方とのバランスも考慮していきます。</li> </ul>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話を伺いながら、どのような支援が必要か推察し、他のサービスを含め、必要な支援を見極めながらご説明します。</li> </ul>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が得意とすることや、潜在能力を引き出せるような支援を行い、できる役割を見つけて一緒に行います。役割を持つ事で自信にも繋がります。</li> </ul>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員はそうのように理解しています。家族でなければという事柄もあります。何かあれば、家族と相談をしながら、協力して頂きます。</li> <li>・毎月定期的に外泊や自宅へ連れて帰る家族もおられます。</li> </ul>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人、知人の来訪の際は、次回の訪問につなげられるよう、歓迎の気持ちを込めた対応を心がけます。</li> </ul>	<p>友人、知人との出会いやボランティアの受け入れ、馴染みの理美容室利用や家族との絆が薄れないように自宅の泊まりなど家族と連携を取っている。馴染みの場の関係を継続できるよう支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて皆さん合同でレクをしたり、孤立しないよう、少人数での余暇活動も取り入れている。意思表示が困難であったり孤立している時は、職員が中に入り調整します。</li> </ul>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・病院での治療が必要であるため、経過やお話をお聞きする程度です。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の関わりや会話の中から思いや希望を聞き、汲み取るようにしている。困難な場合は、ご家族から情報を得たり、本人の立場で推測する。	利用者尊重を徹底し、家族から得た情報や利用者の普段の会話や行動、サイン等から気づきを持ち、本人はどうだろうという本人本位の視点に常に立ち、希望や意向を汲み取り把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・相談に見えられた時、入居手続きの際、ご家族からお話を伺い、また受けていた直近のサービス事業者から情報をいただきます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・自ら得た情報・事前調査情報・申し送り・他の職員からの情報を基に、一人ひとりの状態を掴んでいきます。変化を見過ごさないように、記録・申し送りで周知します。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・課題や検討が必要な事項はカンファレンスで話し合い、現場の声を介護計画に反映します。日々のケアで試みることもあります。家族の意見は来訪された際にお聞きします。	センター方式を活用し、利用者の日常的行動、考えを把握し、家族の意見も聞き課題やニーズを抽出し、医師ら関係者と協議し介護計画の素案を作成、会議で最終的な介護計画を作成している。日々の記録とモニタリングは運動できるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や変化が個別に記載され、それを元に会議で話し合い、見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の心身の変化、家族の事情などに応じて、できる限りの対応に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事や催し物に参加したり、日常にご近所に買い物に出かけ、地域と協働している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者、ご家族の希望に応じて、入居以前のかかりつけ医を継続したり、新たに協力医療機関に変わられたりします。専門的な治療が必要な場合は、継続的に受診している、かかりつけ医をお勧めします。	入居後は、新たな医療機関に受診となるが、希望に応じて家族の協力を得て従来のかかりつけ医の受診など健康管理に努めている。受診結果は記録し内容を家族に伝えている。看護師が常駐し健康管理を行っている。緊急時の連絡先リストも作成され、適切な対応・支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・管理者、職員から1週間の報告や相談を受け、各自の健康チェックを行います。往診日は立会い、変化や心配事などDrに報告したり、指示を受けたりします。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医師、医療関係者は、ホームでできる支援、できない支援を理解しており、状態についての情報交換も適時行える関係にある。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際に重度化、終末についてのご説明をしますが、実際には状態を見ながら今後についての話し合いを進めていきます。最終的には医師を含め、三者で希望なども含め、話し合いの場を設け決定していきます。	重度化及び看取り対応指針、終末期におけるケアの同意書など契約時に説明し同意を得る体制を整えている。チームとして取り組むため医師、看護師、事業所、家族などと方針などを共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・内部研修で早期の判断や気付きの大切さ、各階職員との連携、冷静な連絡方法の周知などの訓練を実施してきたが、実際発生した時に対処できるか不安がある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・夜勤を想定した避難訓練はできる限り月1度実施してきた。 ・地震・水害などの避難場所について、運営推進会議の皆さんからご意見、アドバイスを頂く。 ・各階に火災通報装置設置 ・マンションの住人には緊急時の協力要請をし、了解いただく。	避難訓練は消防署立会い訓練と事業所単独での自主訓練を毎月1回実施している。運営推進会議での検討、避難場所の確保、事業所の上の階のマンション住民との協力体制など構築している。防火扉の設置や自動火災通報装置を各階に設置している。緊急時に向けた対策が着実に進んでいる。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・特に入浴やトイレ介助には、プライバシーに配慮し、個々に合わせた言葉掛けを工夫している。介助に抵抗があったり、意思疎通が困難な方の対応が難しく、「思いやりを持って」を心がけている。	運営理念の意味を職員は理解してプライドを傷つけないよう入浴やトイレ介助など日頃から配慮して対応している。人権関連の研修会出席職員は研修報告をして全職員に周知している。人格やプライバシーを損ねない対応を意識づけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常的に皆さん自由に希望や思いを述べられ、その人らしさを表現されています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人の希望は直ぐには応じられない場合もあるが、時間を置いて答えている。また、余暇活動は小単位に別れ、個々の好みやペースに合わせた内容を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・髭剃り、整髪は毎朝整えている。基本におしゃれ、洋服は本人の好みになっているが、汚れに配慮し、こちらでもアドバイスします。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・お手伝いに参加される方が多くなり、皆さん公平に関われるよう、役割や時間帯をある程度決めていきます。皆さん台所仕事は意欲的で好まれます。	利用者の能力に応じて食事の準備や後片付けなどを職員とともに利用者が自主的に参加されている。昼食時に職員は、利用者の嚙下の状況を観察しながら積極的にコミュニケーションを図るなど、笑い声溢れる食卓の情景が窺われた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・年齢や性別、運動量などで食事量をみています。水分も一日の飲用量を目安に勧めます。コレステロールが高値で、食の見直しが必要な方がおられます。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きを実施、ご自分でできない所や不足な部分は介助を行います。就寝時の管理ができない方は、義歯をお預かりします。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・オムツ汚染や失敗を減らすため、排泄票を活用し、時間をみながらトイレ誘導や声かけを行います。着衣の上げ下ろしや拭き取りなど、ご自分で出来る動作は見守ります。	排泄票から、個々の習慣やパターンを把握し、表情や動作のサインを掴み声かけトイレ誘導を行なっている。不安や羞恥心、プライバシーにも配慮し、自立に向けた支援を行なっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事に野菜を多く取り入れ、水分は十分補うようにしている。散歩やフットマシーンなどの運動も日課に行っているが、腸の働きも低下しており、整腸剤・下剤などでコントロールし便秘予防します。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は曜日が決まっています。入る時間帯、順番は他の方と重ならなければ希望に合わせます。入浴に拒否がある方は、時間帯を問わず、機嫌やタイミングをみながら誘っています。・同性介助も希望に応じ実施します。	週に2回入浴があり、曜日は決まっているが、利用者のコンディションや希望により臨機応変に本人に即した入浴の支援をしている。入浴時は安心、ゆったり感などくつるげる雰囲気大切に支援している。同性介助は希望者に合わせている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活習慣を把握した上で、その日の様子や疲労感を観察し、臥床を促したり、安心できる声かけを行います。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬一覧が手元にあって、薬の種類、注意書きなど確認できる。内服薬の変更などは申し送りにより周知され、薬による変化を観察している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の好きな事、得意な事のお手伝いを中心に、役割を継続したり、手先の器用な方は縫い物等、得意分野を勤めている。散歩など外の空気を吸って気分転換もしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・皆さん外へ出るのを好まれ、毎日散歩が日課です。個別を希望される方も出来る限り応じています。年に数回、皆さんの希望の場所に遠出をします。	外出支援を積極的に行なっている。行事的な外出では希望による開拓の村や小樽水俗間など遠出もある。個別の外出では個々のニーズに応じた買い物、外食や天候の良い日は近くの公園など、戸外では気持ちよく過ごせるように一人ひとりの思いに沿った支援に多く取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額を所持している方、お小遣を自己管理で自由に買い物されている方がおります。紛失やしまい忘れなどもあるため、殆どが事務所で管理です。利用者から希望があればその都度使える体制にあるため、不便は感じていないようです。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を所持の方もおりますが、ほとんどの方は自ら電話をかけることはなく、希望があればこちらで取り次ぎます。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・職員は季節に応じた作品を考案し、皆さんで手作りしたものを廊下などに展示しています。テレビ音、採光などはその時々で調整し、不快を感じさせないよう配慮しています。	テレビの音や採光は生活に邪魔にならないように調整している。居間や共用スペースには、季節に応じた職員や利用者の手づくりの貼り絵、カレンダー、行事写真が飾られている。家庭的雰囲気の中で昼寝やテレビ鑑賞などして個々の利用者が居心地よく過ごしている。体の状態に配慮した洗面台は、昇降式となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・皆さん安心して過ごせる居場所があって、気の合う方たちでくつろいでいます。疲れたり一人になりたいときは自室で休まれます。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を持参されたり、お部屋のスペースに合った大きさのものを新たに購入される場合もあります。	居室は利用者の馴染みの家具、ソファ、小物など調度品、仏壇など自由に持ち込まれ、テレビなど新たに購入するなど利用者の生活スタイルを活かしながら、居心地よい居室となるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室前にはネームプレート、トイレはトイレマークがあり、室内はバリアフリーで安全面に配慮されています。		